

(第1面)

産業廃棄物処理計画書

平成26年 6月18日

兵庫県知事 殿

提出者

住 所 兵庫県養父市大藪1062番地

氏 名 株式会社NEOMAX 近畿

代表取締役 社長 和田 知純

(法人にあつては、名称及び代表者の氏名)

電話番号 079-665-0126

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	株式会社NEOMAX 近畿
事業場の所在地	兵庫県養父市大藪1062番地
計画期間	平成26年 4月1日から平成27年 3月31日
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
①事業の種類	2999 その他の電気機械器具製造業
②事業の規模	製造品出荷額 3,346,000万円 (平成25年度実績)
③従業員数	320人 (平成26年4月時点)
④産業廃棄物の一連の処理の工程	別紙のとおり 図1 製造工程フロー 図2 廃棄物処理フロー

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)

別紙のとおり

1. 役割・責任者および管理組織

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

①現状	【前年度（25年度）実績】	
	産業廃棄物の種類	別紙のとおり
	排出量	t t
	(これまでに実施した取組) 特になし	
②計画	【目標】	
	産業廃棄物の種類	別紙のとおり
	排出量	t
	(今後実施する予定の取組) 特になし	

産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 廃プラスチック類、紙くずの分別
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 廃プラスチック類、紙くずの分別

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項			
①現状	【前年度（25年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	—	
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	—	
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		
自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項			
①現状	【前年度（25年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	廃アルカリ	
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	787 t	t
	(これまでに実施した取組) 減圧脱水処理による廃アルカリの減量化		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	廃アルカリ	
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	800 t	t
	(今後実施する予定の取組) 減圧脱水処理による廃アルカリの減量化		

(第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項			
①現状	【前年度（25年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	—	
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	—	
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		
産業廃棄物の処理の委託に関する事項			
①現状	【前年度（25年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	全処理委託量	別紙のとおり	
	優良認定処理業者への処理委託量	t	t
	再生利用業者への処理委託量	t	t
	認定熱回収業者への処理委託量	t	t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	t	t
	(これまでに実施した取組) 特になし		

②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
		別紙のとおり	
	全処理委託量	t	t
	優良認定処理業者への 処理委託量	t	t
	再生利用業者への 処理委託量	t	t
	認定熱回収業者への 処理委託量	t	t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	t	t
(今後実施する予定の取組)			
特になし			
※事務処理欄			

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3)④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「―」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。

図1 製造工程フロー

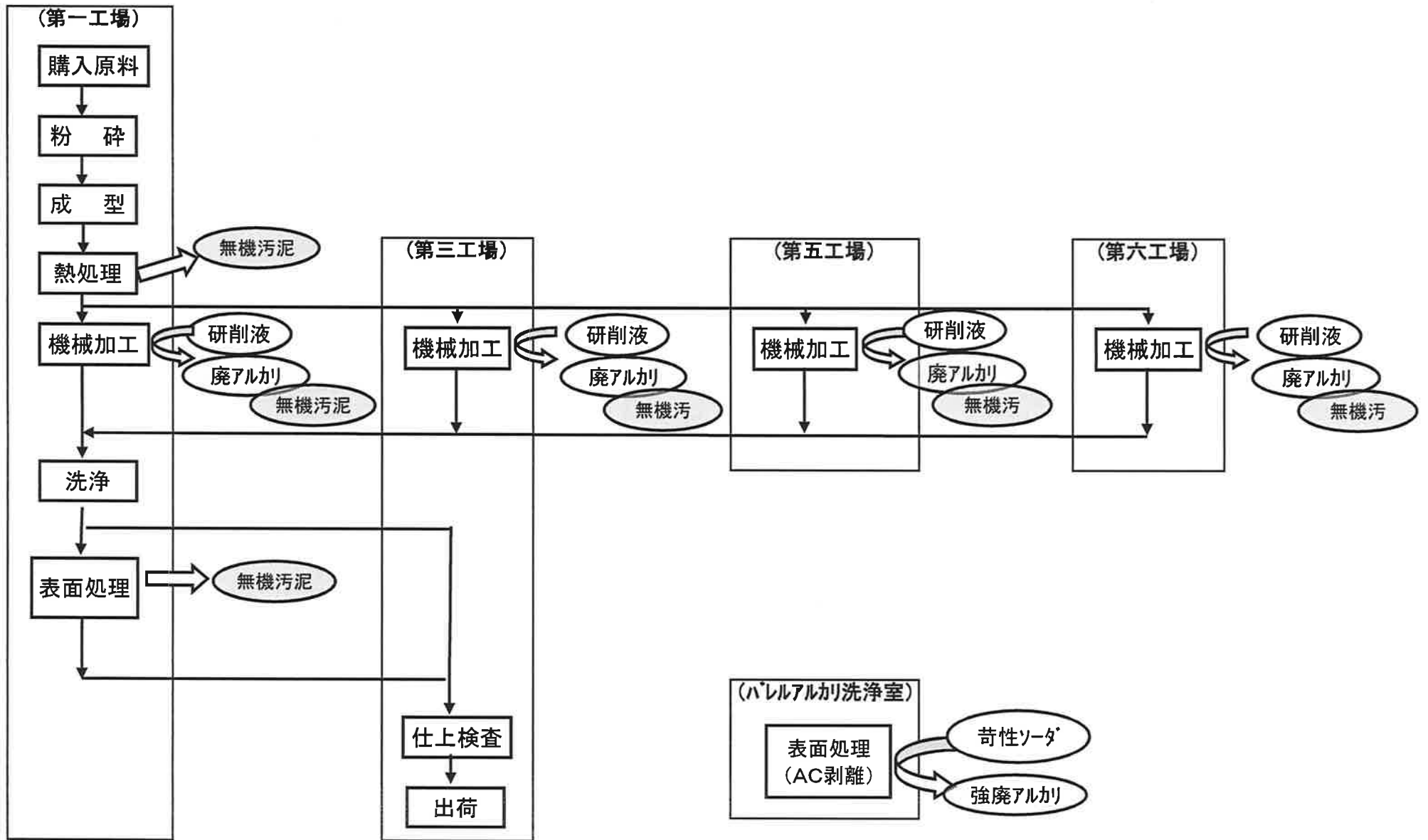
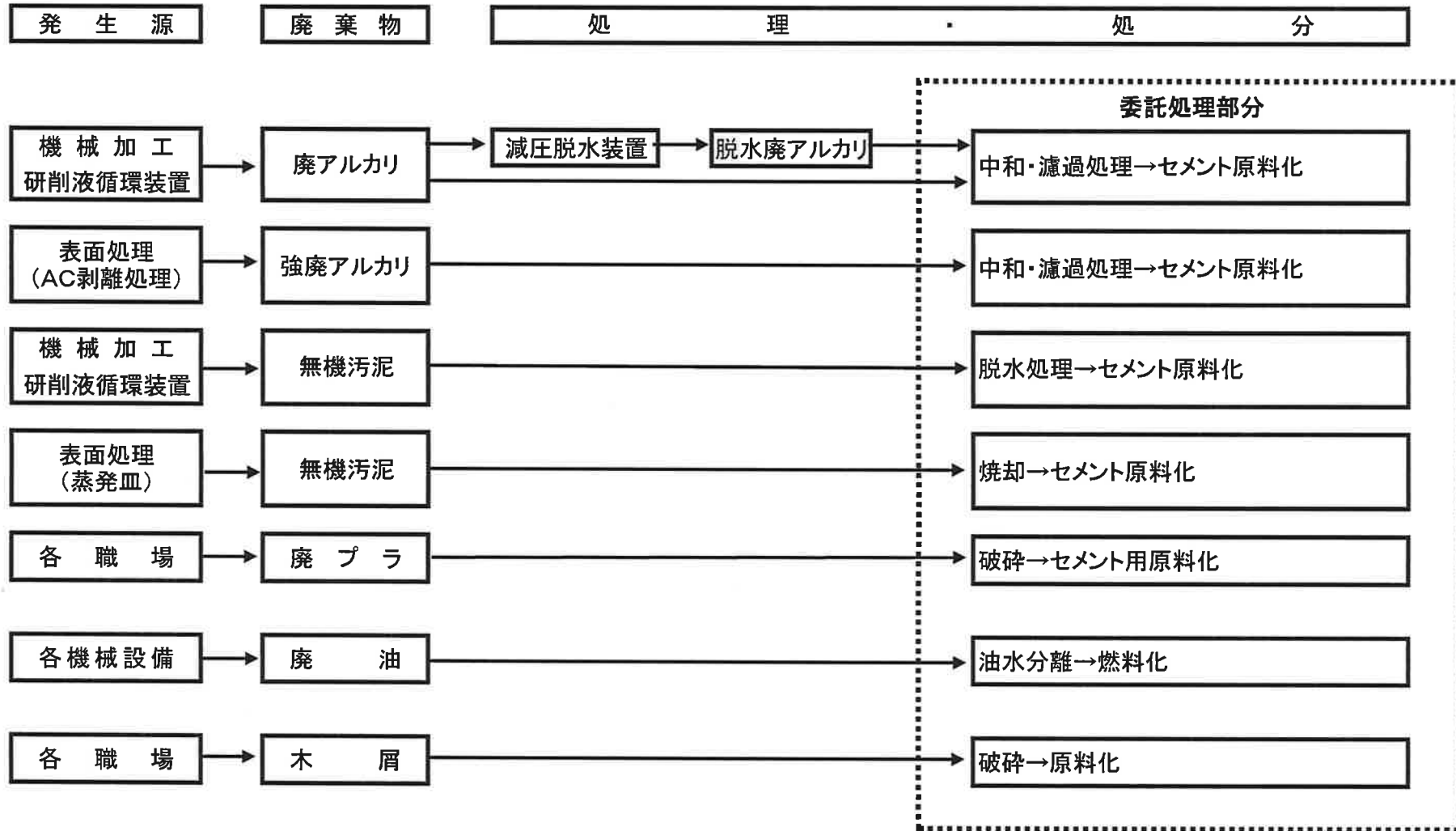
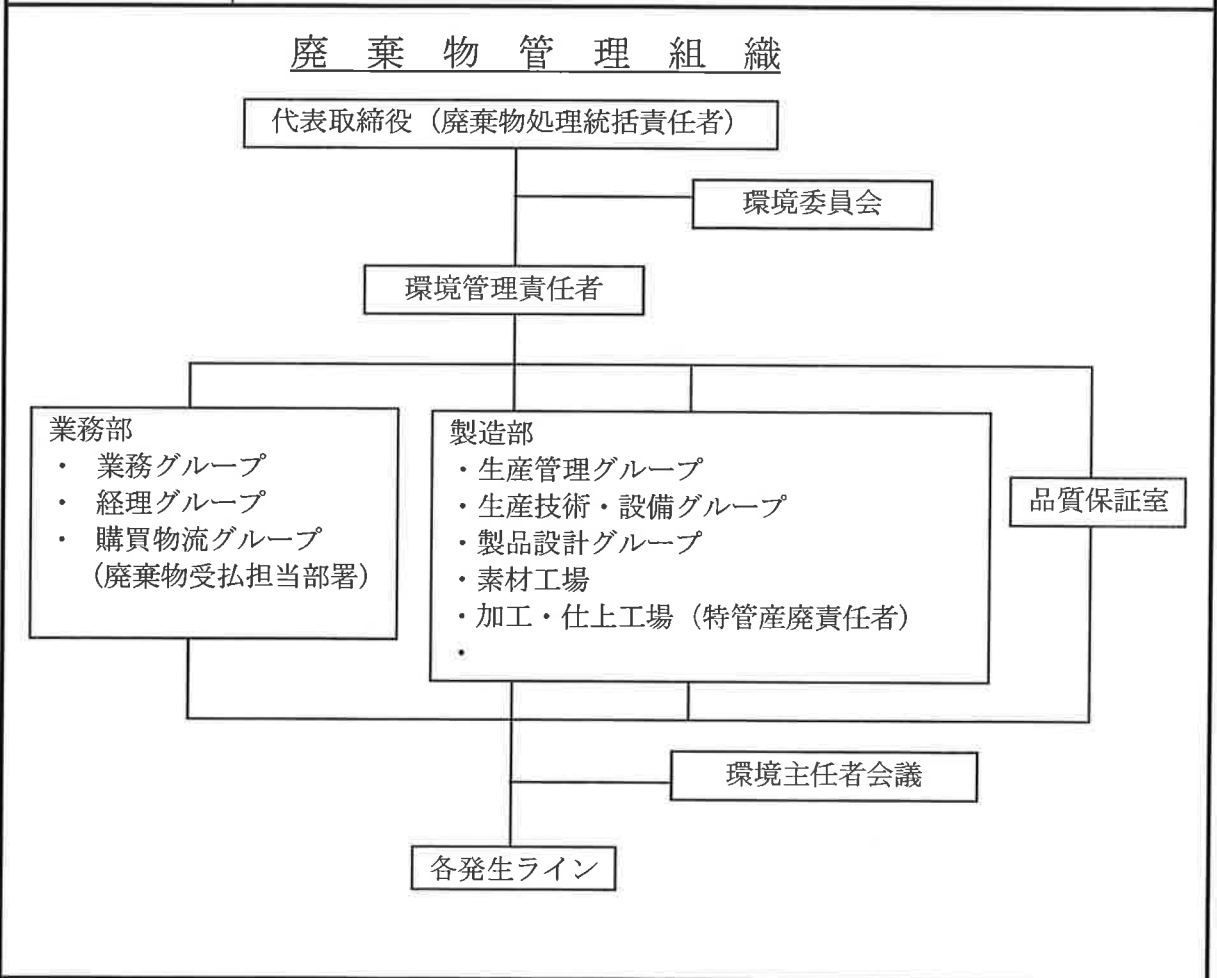


図2 廃棄物処理フロー



別紙 役割・責任者および管理組織

廃棄物処理 統括責任者	代表取締役社長 ○廃棄物処理方針の決定 ○廃棄物処理に関する各種事項の決定、承認
廃棄物管理	購買物流グループ ○処理委託業者、再生利用者の調査、選定及び管理 ○委託契約の締結 ○産業廃棄物・特別管理産廃物管理票（電子マニフェスト）の交付 ○廃棄物管理状況の把握と改善策の検討 ○産業廃棄物の管理 ○監督官庁への各種報告 ○社員、関連会社に対する教育・啓発 等
県への報告	生産技術・設備グループ ○廃棄物処理計画の作成
環境委員会	各部署長 ○廃棄物処理に関する検討 廃棄物の発生抑制、再生利用、中間処理、適正処理の推進、計画的な廃棄物の管理運営を行う上で必要な事項を審議・検討する。 ・委員長－代表取締役社長 ・委員－各部署長 ・事務局－生産技術・設備グループ ※下部組織として各部署環境主任者による環境主任者会議をおく。



産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

○現状 前年度（平成25年度）実績

産業廃棄物の種類	汚泥（泥状のもの）	廃油	廃アルカリ	廃プラスチック類	木くず
排出量	484 t	1 t	910 t	10 t	14 t

○計画 目標

産業廃棄物の種類	汚泥（泥状のもの）	廃油	廃アルカリ	廃プラスチック類	木くず
排出量	390 t	0 t	921 t	8 t	10 t

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

○現状 前年度（平成25年度）実績

産業廃棄物の種類	汚泥（泥状のもの）	廃油	廃アルカリ	廃プラスチック類	木くず
全処理委託量	484 t	1 t	221 t	10 t	14 t
優良認定処理業者への 処理委託量	484 t	1 t	221 t	4 t	14 t
再生利用業者への 処理委託量	484 t	1 t	221 t	0 t	0 t
認定熱回収業者への 処理委託量	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t
認定熱回収業者以外の 熱回収を行う 業者への処理委託量	0 t	0 t	0 t	10 t	14 t

○計画 目標

産業廃棄物の種類	汚泥（泥状のもの）	廃油	廃アルカリ	廃プラスチック類	木くず
全処理委託量	390 t	0 t	220 t	8 t	10 t
優良認定処理業者への 処理委託量	390 t	0 t	220 t	4 t	10 t
再生利用業者への 処理委託量	390 t	0 t	220 t	0 t	0 t
認定熱回収業者への 処理委託量	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t
認定熱回収業者以外の 熱回収を行う 業者への処理委託量	0 t	0 t	0 t	8 t	10 t